



地域の防除、貢献したい

年12月末時点の県内の認定者は874人で、16歳は1人だという。現場で手伝ってきた。「僕も飛ばしたい」と思うようになった。小学生の頃には「初めはなかなか飛ばなかった。16歳になってすぐ、高校1年だった昨年3月に実技と筆記の試験を受け、合格を果たした。」

大仙市の大曲農業高校2年生。高校生ながら昨年、農業散布を行う「産業用無人ヘリコプターオペレーター」の技能認定者となった。「ヘリを飛ばせることを生かして農業に貢献したい」と話し、地域の防除を担うことに意欲をみせる。資格は16歳以上が取得できる。技能認定を行う農林水産航空協会(東京)によると、16歳で取得したのは県内で6人目。昨

高校生で無人ヘリオペレーター

齊藤 賢翔さん(16)

美郷町金沢



無人ヘリでの防除に意欲をみせる齊藤さん＝昨年6月(本人提供)

「使って練習を重ねた。技術の習得は一筋縄ではいかなかった。」初めは「なかなか飛ばなかった。16歳になってすぐ、高校1年だった昨年3月に実技と筆記の試験を受け、合格を果たした。」その後、父の法人が手がける農地で実際の散布にも携わっている。「思い通りに飛ばせるようになってきて楽しい。これからは地域の防除に少しでも貢献したい。農家は高齢化が深刻なので、若い人が増えてほしい」と真っすぐな目で語った。

〈佐藤将弥〉
〈随時掲載〉